

## レポート課題

以下の文章をよく読み、次の①～⑩の課題のうち2つを取り上げ、それについて、あなたの考えや意見を述べてください。なお、⑫の課題は必ず選び、レポートを作成してください。ただし、⑪については、この講義で提供された話題の中から2項目選択して（すなわち、⑪と⑫を選んで）も結構です。

書式はA4判であれば、その他は枚数なども含めて自由です。ただし、レポートとしての体裁は整えてください。また、学科名、学籍番号、氏名はどこかに必ず明記してください。

→ 1項目の課題につき、最低でも1冊の参考文献を（インターネットのホームページではなく）読んでください。

→→ 1項目の課題に対して複数の素材（何らかの証拠となるもの、例えば図表、データなど）を探し、論を組み立ててください。

採点基準は、以下の通りです。

- 1) 論旨、論拠が明快であるか、どうか。
- 2) 調査の方法とその結果の信頼性と再現性が高いか、どうか。
- 3) 表現や用語が適切であるか、どうか。

①居住環境学科の学生である自分にとって、歴史を学ぶとは、どういう意味をもつことなのだろうか？

□→例えば、歴史を学ぶことに意味はあるのか？もしくは意味はないのか？居住環境学と歴史の関係はどのようなものか？それとも関係はないのか？それでもやはり関係はあるのか？さらに、どのような理由でそのように考えたのか？（10月12日）

②女性もしくは男性という視点からは、居住環境の改善や調整に対して、どのような役割を果たすことができると考えられるだろうか？

□→例えば、女性は、どのような点で居住環境の改善に貢献できるのか？男性は、どのような点で貢献できるのか？

それとも、女性や男性などの性差は、建築や居住環境の世界では、意味がないものであろうか？存在しないものであろうか？もしくは、否応なく存在しているものであろうか？

さらには、性差ということ（もの、言葉）自体が、意味がないものであろうか？存在しないものであろうか？もしくは、否応なく存在しているものであろうか？

ジェンダー・マイノリティ（性的少数者）もしくはLGBTからみた建築や居住環境の世界はどんなものであろうか？「女性ならではの視点」や「男性ならではの視点」は

本当にあるのか？ないのか？また、「女性らしい建築」や「男性らしい建築」は本当にあるのか？ないのか？（10月19日）

③人間がこれまでに開発してきた居住環境の調整に関する技術は、今後、どのような方向に進むとよいと考えられるであろうか？

→例えば、もっともっと技術を進歩させる方がよいのであろうか？なぜ、人々は改善したくなるのであろうか？その際には、どんなことを考えておきたいか？

別の見方としては、もうこれ以上の技術の進歩は不要なのであろうか？技術の進歩については、技術者の好奇心（もしくは欲求）にまかせれば十分であらうか？それとも、もっと違う方向があるだろうか？いずれの場合も、どのような理由でそう考えたのだろうか？（10月26日）

④冷暖房の技術がこれまでたどってきた歴史から、私達が学べることは何だろうか？技術の歴史を学ぶと、何がみえてくるだろうか？みえてきたものは何だろうか？

→③の課題例とよく似たことを考えるかもしれませんが。③では、将来の方向性について考えてもらい、④では歴史を振り替えることの意味を考えてください。もしくは、①から④までの4回で学修した「居住環境調整の歴史」を振り返って自由に考えたことを書いてください。（11月02日）

⑤どのようにすれば、上手に、建築物や都市のライフサイクルをマネジメントできるのだろうか？

□→建築物や都市の「一生」を考えたことはあるだろうか？もしくは、「一生」なんて考えなくてもよいのだろうか？人間と同じように、建築物や都市にも「一生」があるかもしれない。ないかもしれない。

どんな工夫をすれば、建築物や都市の一生を長くできるか？もしくは、長くしなくてもよいのか？

目先の利益を重視するか、それとも将来の利益を重視するか？環境への負荷とコストのバランスはどのようにとれば良いのか？（11月09日）

⑥「人間」と「環境」の関係を図示してみよう／私達が、ある環境に働きかける際の、or ある環境を調整する際の、or ある環境に対して行動を起こす際の、過程をできるだけ細かく分解してみよう／自分なりに作った2つの「モデル」のモデルの確かさを保証するためには、どのようにすればよいか？

→自分なりの言葉や図や絵で、自分が考えていることを書き出してみよう／「考えていること＝書き出した内容」になるだろうか？／書き出すことによって、考えている内容を、さらにその先に進められないか？／周りとの話し合いで、考えている内容を、さらにその先に進められないか？／来年度に取り組む卒業研究の過程（プロセス）を大雑把でよいので体験してみよう  
この日は、A3判の白紙を配布し、それを埋める作業をしながら講義を進めたので注意。（11

月30日)

⑦都市におけるヒートアイランド現象は、その原因だけではなく、発生のメカニズムもほとんど解明され、対策も有用性が確認されているものが多い。これだけ状況が揃えば、すぐにでも問題は解決しそうである。しかし、現在でも問題は解決しないままである。なぜ、根本的な問題が解決できず、現在でも問題のままになり続けるのであろうか。

□→例えば、どこが問題なのだろうか。他の公害問題は（少なくとも表面上は）おおそ解決しているのに、どうしてヒートアイランドだけ解決できないのだろうか。ヒートアイランドについて正しく理解ができていないのだろうか。どのようなスケールで考えればよいのだろうか。一般の人々と専門家の認識とのずれがあるのだろうか。（12月14日）

⑧私たちの周りの空気環境が悪化すると、なぜ問題になるのだろうか？空気環境の悪化は、私達人間にどのような影響を与えるのであろうか？どこが問題なのだろうか？その問題は、なぜ重要なのだろうか？問題を解決するにはどのようにすればよいと考えられるのだろうか？それとも、もう問題は解決したので、気にする必要はないのだろうか？

→空気環境とは何か？ヒートアイランド現象などの熱の問題や音や光の問題とはどこが違うのか？私達が生きていく上で必ず必要な空気環境ならでは、の問題点は何か？

→→排出側も影響を受ける側も共存できる方法はないだろうか。（12月21日）

⑨音に対する考え方、評価や捉え方は、人によって様々である。そのような音を、皆が満足するように調節、調整、もしくはコントロールするにはどのようにすればよいだろうか。また、何が「正しい」音環境だと考えられるだろうか。もしくは、どのような音環境が「よい」音環境だと考えられるのだろうか。

→例えば、熊本赤十字病院（日赤病院）のドクターヘリや救急車は確かに大きな音だが、人命の問題もあり、多くの方はそこまで気にしていないようである。一方、熊本空港の飛行機や九州新幹線、九州自動車道、国体道路などでは、経済の問題と騒音の問題の両立が難しい。また、嫌いな音と好きな音の違いはどのような点にあるだろうか。同じ音でも、時と場合によっても評価が変わるかもしれない。様々な立場からの評価がある点に注意したい。

※もしくは、新聞・雑誌・インターネットなどマスメディアが提供する情報については、どのように考えればよいのだろうか。どのように取舍選択し、取り込んで行けばよいのだろうか。（01月18日）

⑩光や色は、都市のあり方にどのように影響を与えるのであろうか？光や色によって（もしくは一般的に）、よりよい都市環境を創造するためには、どのような基準、ルール、規範もしくは根拠を参考にすればよいのだろうか？もしくは、従えばよいのだろうか？

→建築ではなく、都市や地域のスケールで考えたとき、光や色と私達の関係はどのようなものであろうか？さらに一歩進んで、「都市」を「デザイン」する際には、何を参考に

すれば良いのだろうか？参考にするものはどこから読み取ればよいのだろうか？それとも、個人の自由な発想に基づけばよいのであろうか？（01 月 25 日）

⑪この講義で提供された話題を取り上げて、自分なりに課題を設定して、あなたの考えや意見を述べてください。

→ 砂本文彦先生の講演会（11 月 13 日）や「看見台湾」の動画（02 月 01 日）の内容を含んでも結構です。また、田中昭雄先生担当分の内容「環境情報統計モデリングの基礎」（12 月 07 日）などを含んでも結構です。

→ 自分で設定した課題の内容については、「必ず」その内容をレポートに明記してください。課題内容の説明がない場合は、採点しません。

⑫講義についての感想，意見，批判など自由に。特に、「ここが悪かった。こうした方が良かった。こうして欲しい。」という建設的な意見を希望します。できれば次年度以降の講義に活かせるような，次年度以降の講義の改善に役立つような意見を希望します。

注 1) 理由や根拠が述べられていない，単なる感想を求めているわけではありません。これまでのレポートの作成に関する注意を踏まえ，図書館などで様々な資料を参考にしたり，様々なデータを用いるなどして，第三者を納得させることができようになしてください。その際には，これまで配布した資料（スライド，音声など），講義の際に取ったメモ，提出したミニレポートとそれに対する皆さんからのコメントなども参考にしてください。配付資料を持っていない場合は，以下のホームページからダウンロード可能です。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/tyosei.html/tyosei.html>

なお，自分で課題を設定する際，課題の設定の仕方は，これまでの受講生のレポートを見る限り，大きく分けて，①考察を行うもの，②理由を問うもの，③Yes-No で答えられるもの，もしくは二者択一，④調べるものが主なもの，⑤その他，に分かれるようです。①，②，③，④の順に高い評価を得る傾向にあり，特に④では，いわゆる「調べ学習」となってしまう，評価が低くなる傾向にありました。課題の設定の際には十分に気を付けてください。

注 2) レポートを書く際に何かを参考にした場合は，どの部分で参考にしたかがわかるように出典を必ず明記してください。出典を明記せずに引用などをした場合，もしくはどの部分で参考にしたかがわからないような場合は，大幅に減点します。

注 3) レポート作成の際に参考となる文献などは，辻原の担当科目である 2020 年度居住環境調整工学実験の配付資料などを参考にしてください。以下のアドレスからダウンロード可能です（284KB）。なお，レポートとしての体裁が整っていない場合は，大幅に減点します。

[https://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/jikkenn20.html/jikkenn2001\\_2.pdf](https://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/jikkenn20.html/jikkenn2001_2.pdf)

注4) 第1回の講義の際にも説明した通り、成績は、提出してもらったミニレポート、授業中の発表、最終レポートを総合して、評価します。定期試験はありません。

提出期限：2021年02月12日（金）17:00

提出先：

辻原研究室（環境共生学部棟西棟（環境共生学部棟旧棟）4階南西角）まで

（電話：096-321-6706（直通）、E-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp）

もしくは、

岡本研究室助手（環境共生学部西棟（旧棟）3階南西角・田中研究室／4階中央・岡本助手室）

まで

（電話：096-383-2929（内線482（助手室）／内線475（田中研）、

E-mail：okamoto@pu-kumamoto.ac.jp）

注) なお、新型コロナウイルス感染症が拡大する可能性も考え、郵送での提出も可能とします。ただし、その場合は、02月12日（金）必着で郵送してください。郵送先は、以下の通りです。

〒862-8502

熊本市東区月出3-1-100

熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻

辻原 万規彦 宛

注) 新型コロナウイルス感染症に感染したなどの事情がある受講生に対しては、提出期限を延期するなどの措置をとることもあり得ます。その際は、速やかに、メールやMS Teamsのチャット機能で連絡してください。